

奥津温泉
国民保養温泉地計画書

平成30年7月
環境省

目 次

1. 温泉地の概要	1
2. 計画の基本方針	2
3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策	2
4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画 又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは 育成方針等	4
5. 温泉資源の保護に関する取組方針	4
6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策	6
7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策	7
8. 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画	9
9. 災害防止対策に係る計画及び措置	11

添付

1. 国民保養温泉地位置図
2. 国民保養温泉地区域図

1. 温泉地の概要

岡山県北部、鳥取県との県境に接する鏡野町にある奥津温泉は、中国山地の内壠に位置し、美作三湯の一つとして日本観光地百選に選ばれている。古くは安土桃山時代の武将が湯治したと記録があり（作陽誌）、指定区域の面積は16.00haの歴史ある温泉である。

全国的にも珍しい奥津温泉ならではの奇習として「足踏み洗濯」があり、昔は熊や狼を見張りながら川のほとりから自然に湧き出る温泉で立ったまま足で洗濯をするようになったといわれており、奥津温泉独特の風習として知られている。

溪谷状の山々と田園風景が美しく、中央には岡山県三大河川の一つ吉井川の源流奥津川が流れており、温泉から下流3kmに渡って広がる名勝奥津溪は西日本有数の紅葉の名所として知られている。1962（昭和37）年には、岡田茉莉子がヒロインを演じた松竹映画「秋津温泉」や、テレビドラマ「温泉町の音」や「犬神家の一族」の舞台にもなった。

奥津温泉周辺には名勝奥津溪のほか、岡山県立森林公園、泉源溪谷、星の里キャンプビレッジ、道の駅奥津温泉、耕心村、奥津湖、妖精の森ガラス美術館等の名所があり、美しい水資源に抱かれた森林や滝、溪谷、湖などの自然環境に恵まれている。



名勝奥津溪



奥津温泉



奥津温泉指定区域

宿泊施設は、旅館やホテル、民宿をあわせて7軒、約200人収容。泉源が多く、豊富な湯量が湧き出ており、アルカリ性単純温泉は肌に柔らかく美白効果が高いといわれていることから「美人湯」として古くから知名度の高い温泉郷として親しまれている。

日帰りで利用できる温泉施設の奥津温泉「花美人の里」は、様々な大浴場の他に家族風呂もある。大手化粧品メーカーの化粧品の原料にも使われている泉質の良さが自慢で、昔から“美人の湯”として親しまれており、地元の山や川で採れた山菜や農産物に拘った「里山レストラン Aelu」などの食事も楽しめる。

また、高台にある「道の駅奥津温泉」では、地元で採れた新鮮野菜や山菜、特産品が販売される他、おばちゃんの味「温泉亭」では田舎のバイキング料理が楽しめる。車で北へ約10分で行ける世界で唯一のウランガラスがテーマの美術館「妖精の森ガラス美術館」には是非立ち寄りたい。

2. 計画の基本方針

奥津温泉のある地域は、鏡野町の中心的観光地となっており、隣接する「名勝奥津溪」や「岡山県立森林公園」、「奥津湖」を始め、滝を裏側から楽しめるパワースポットとして人気の「岩井滝」や恩原高原スキー場、世界で唯一のウランガラスがテーマの「妖精の森ガラス美術館」、ミツバチ製品の通信販売で全国的に知られる（株）山田養蜂場の本社があり、直営のお菓子工房「ぶんぶんファクトリー」や体験施設「みつばち農園」など、温泉を含めた一体的な観光地を形成している。

同温泉は、豊富な湯量や源泉かけ流しの魅力とともに、周辺地域の美しい自然景観や特産品の魅力の他、歴史ロマンあふれる田園の風景の中に懐かしさを感じられる落ち着いた温泉地の風情が多くのお客さまに支持されている。客層は中高齢者が中心で、春の新緑、夏の涼風、秋の紅葉、冬の雪景色といった、はっきりとした四季の素材と共に、温泉地でゆっくりと過ごす個人客の利用が多い。

当温泉地は、小規模な温泉地でありながら様々なお客様に対応できる施設が立地しているほか、周辺地域を含めた魅力ある自然環境や歴史、文化が維持・保全されている。この特徴を活かして、今後は外国人観光客を含む多様なお客様が温泉地を拠点に数日間滞在し、奥津温泉と周辺地域の自然環境、歴史・文化・食等の資源を一体的に捉え、健康づくりを楽しんでもらえる滞在体験型の健康保養地としての温泉地を目指す。

【具体的な取り組み例】

- ・心と体の健康増進をテーマとした体験やアクティビティの充実に向けた観光素材の開発等、着地型観光素材の企画・造成に取り組む。
- ・温泉地らしい土産物やグッズの開発・販売等によって、名勝奥津溪や道の駅奥津温泉を訪れる観光客へのアプローチを強化する。
- ・各施設での外国人観光客向けの案内や食事等への対応強化を図り、国内外と問わず幅広いお客様の受け入れ環境を充実させる。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

(1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

奥津温泉は、湯原奥津県立自然公園内にあり、泉山とこれに連なる中国山地を背景に、豊富な水量を誇る1級河川・吉井川の源流に位置している。奥津温泉周辺は、溪谷状の山並みや水田等で構成される穏やかな風景が広がり、温泉地の情緒ある懐かしい風景や景観が保たれている。

同公園は、美しい水資源に抱かれた自然環境や多くの史跡が一体となった自然公園であり、奥津温泉は鏡野町の中央に位置する奥津地区にある。起源は、『作陽誌』に安土桃山時代の武将・宇喜多左京亮詮家（後の石洲津和野城主、坂崎出羽守直盛）が戦いで受けた傷を入湯で癒したと伝えられるように、中世末～近世初頭は中国地方において南部の毛利、赤松、宇喜多、山陰地方、尼子、山名ら戦国大名の勢力争いの舞台となり、伯耆との国境に近い奥津温泉周辺も群雄割拠の争点となったことが想像できる。江戸時代には、津山藩主の湯治場としても利用され、



その泉質の良さから浴室に鍵をかけ一般の入浴を禁止した「鍵湯」を設けたとも伝えられている。

また、全国的にも珍しい奥津温泉ならではの奇習として「足踏み洗濯」があり、昔は熊や狼を見張りながら川のほとりから自然に湧き出る温泉で立ったまま足で洗濯をするようになったといわれており、姉さんかぶりにカスリ、赤腰巻にタスキというスタイルで、足で踏みながらの洗濯は別名「洗濯ダンス」とも呼ばれ、奥津温泉独特の風習として知られている。

昭和 37 年（1962 年）、岡田茉莉子がヒロインを演じた松竹映画「秋津温泉」により奥津温泉は一躍有名になり、小説「秋津温泉」は、岡山県生まれで戦時中にたびたび訪れ入浴養生した作家藤原審爾の代表作であり出世作となった。その後、テレビドラマ「温泉町の音」や「犬神家の一族」の舞台にもなり、風情ある景観はメディアを通じて発信されている。



名勝奥津溪

昭和 40 年代前半のピーク時には 16 件の旅館が立ち並び、多くの観光客で賑わいをみせていたが、昭和から平成にかけ徐々に減少し、現在は旅館・ホテル・民宿をあわせて 7 件の宿泊施設が営業され、風情ある美しい山里のロマンあふれる豊富な自然資源が残されている。

(2) 取組の現状

奥津温泉は、湯原奥津県立自然公園内にあり、岡山県立自然公園条例に基づき公園内の自然環境が保たれている。鏡野町では、国指定名勝奥津溪や建造物旧森江家住宅を始めとした、価値ある遺跡、史跡、お祭り、社寺、庭園など、優れた有形・無形の文化財を維持・保存しつつ、美しい自然景観を活かした観光イベントの開催や、地域資源を活かした現地案内人付きプランや体験プラン等を実施し、エコツーリズム、ヘルスツーリズム、グリーンツーリズムを推進している。

鏡野町では、①鏡野町観光協会、②奥津温泉旅館組合、③かがみのツーリズム研究会の団体が存在する。①については地元観光企業や団体等で組織され、奥津温泉を中心とした様々な観光イベント（「奥津温泉ファミリーあまご釣り大会」や「奥津もみじ祭り」等）の開催や環境保全活動として、名勝奥津溪等の定期的な清掃活動を行っている。②については旅館・ホテル・民宿等の経営者で組織されている団体であり、奥津温泉を象徴する風習である「足踏み洗濯」の実演を、冬季を除く日曜日と祝日の午前 8 時 30 分から実施しており、奥津温泉の清掃活動も定期的に行っている。③については、鏡野町内の主要観光企業や団体、行政等で組織され、①②も構成員として参加しており、現地案内人付きプランや体験プラン（「名勝奥津溪プレミアムウォーク」や「奥津温泉ノルディックウォーク」、「郷土料理いもじる作り体験」など）を企画・実施している。

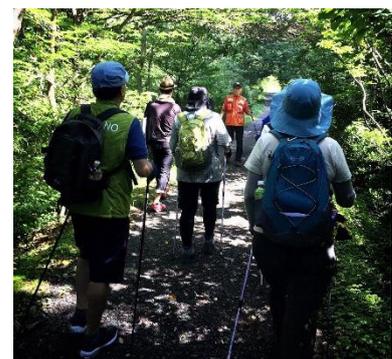
鏡野町では、「森といで湯と田園文化の里」をキャッチフレーズに、環境保全や賑わい創出、歴史・文化の伝承を行っているところであり、鏡野町の中心に位置する奥津温泉を中心に「健康の町かがみの」を目指した取り組みとして、環境美化活動や施設維持・修繕、観光パンフレットの発行や観光イベントの実施、着地型観光プランの造成を行い、魅力ある温泉地づくりに取り組んできた。



奥津もみじ祭り・ライトアップ



観光パンフレット



奥津温泉ノルディックウォーク

(3) 今後の取組方策

奥津温泉においては、現在の温泉地の情緒ある風景や景観を大切に、自然環境、まちなみ、歴史、文化等の維持・保全等を図るため、地元と観光関連団体、行政等が協議・調整し、現状の取組を継続、発展させる。また、滞在・体験型の健康保養地としての温泉地を目指す上で、観光団体及び行政が一体的にこれらの貴重な資源の魅力を来訪者や地域内外へPR・プロモーションを図り、温泉と共に地域の素材を楽しみ、親しんでもらう取り組みを通じて、維持・保全に繋げていく。

【具体的な取り組み例】

- ・行政、観光協会、かがみのツーリズム研究会が連携したPR・プロモーション本部の設置
- ・首都圏や関西のアンテナショップを活用した一体的な魅力発信イベントの実施
- ・奥津温泉を含む鏡野町内の「健康素材」を活かした現地ツアーの企画・造成。

4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の状況

奥津温泉では、現在、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師を配置していない。また、入浴方法の指導を行う人材もいない。

このため、今後(2)に記載する医師及び人材の配置・育成に取り組んでいく。

(2) 配置計画又は育成方針等

奥津温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師及び入浴方法等の指導を行う人材を配置することにしており、その計画及び育成方針は、以下のとおりである。

①医師

氏名	専門分野	活 動 内 容	配置年度
鏡野町立病院 医師	内科	・定期的に、旅館経営者および温泉施設職員を対象に、医師等を招いて温泉利用に関する講習会を実施。 ・鏡野町立病院において、温泉利用に関する相談ができる体制の構築。	平成33年まで

②入浴方法等の指導を行う人材

資格	人数	活 動 内 容	配置年度	育成方針
温泉入浴 指導員	1人	・温泉利用の安全かつ適切な実践指導を行う。 ・生活指導、安全管理、救急処置を行う。	平成33年まで	4年以内に2人最終的に全ての施設(7施設)で1人ずつ配置を目指す。

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

奥津温泉は、11本の源泉が12軒の施設（2箇所の日帰り入浴施設を含む）に利用されており、pH値は8.9～9.5を誇ります。

奥津温泉 源泉

源泉名	温度(℃)	湧出量(l/min)	泉質	湧出状況	所有者	利用施設
美人湯	39.0	150.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	掘削動力	町	日帰り施設 民宿3施設
奥津荘鍵湯	42.0	247.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性高温泉）	自然湧出	民間	旅館1施設
東和楼岩湯	41.7	105.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性高温泉）	自然湧出	民間	旅館1施設
川西温泉	37.1		アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性高温泉）	掘削自噴	民間	共同浴場1施設
河鹿園温泉	42.0	300.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	掘削動力	民間	旅館1施設
西西の湯	34.6	60.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	掘削動力	民間	ホテル1施設
般若時温泉一乃湯	40.0	30.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	自然湧出・動力揚湯	民間	旅館1施設
般若時温泉二乃湯	38.2	30.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	自然湧出・動力揚湯	民間	
般若時温泉三乃湯	36.5	20.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	動力揚湯	民間	
城山温泉	38.4	40.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	掘削自噴	民間	民宿1施設
大釣温泉	35.1	60.0	アルカリ性単純温泉（低張性アルカリ性温泉）	動力揚湯	町	日帰り施設

(2) 取組の現状

奥津温泉では、開湯より現在のところ温泉湧出量は豊富であるが、これを将来に渡って維持するため、下記のとおり管理を行っている。

源泉	取組	実施主体	実施年度
奥津温泉 全域	温度、湧出具合の確認。 バルブ、ドレン等の点検を必要に応じて実施。 浴槽の定期清掃、源泉のクリーニング、水質検査の実施。	源泉所有者	平成29年～
奥津温泉 全域	源泉周辺の水没等による被害の復旧 源泉周辺の草刈り・定期清掃活動を年2回実施。	源泉所有者 奥津温泉観光協会 奥津温泉旅館組合	平成29年～

(3) 今後の取組方策

奥津温泉において、実施主体と調整の上、(2)の取り組みを継続する。

更に、モニタリングの強化を図るため、源泉所有者がpH・電気伝導度・湧出量・水位の観測等に関する定期的な観測方法を検討する。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

奥津温泉において、温泉の利用にあたって使用している設備及び温泉利用の状況は、以下のとおりである。

① 浴用利用のみ

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
美人湯	1	貯湯槽・引湯管	4
上記以外の源泉	9	なし(源泉からの直接引湯)、引湯管、貯湯槽	7

② 浴用及び飲用利用

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	施設数	
			浴用	飲用
奥津荘鍵湯	1	引湯管	1	1

(2) 取組の現状

奥津温泉において、現在講じている取り組み状況は以下のとおりである。

設備	区分	取組	実施主体
源泉	自主的	源泉のクリーニング(異物除去等)を定期的を実施。	源泉所有者
引湯管(供給)	自主的	定期的引湯管等のクリーニングを実施	源泉所有者
引湯管(引込)	自主的	定期的クリーニングを実施	設備所有者
貯湯槽	自主的	清掃及び消毒を定期的実施	設備所有者
浴槽	自主的	浴槽水については、浴槽水を完全に排出したうえで清掃を行う。	設備所有者
		浴槽水は常に満杯の状態を保ち、かつ、ろ過した湯水又は原湯を十分に供給することにより清浄を保つ。	

(3) 今後の取組方策

奥津温泉において、今後も温泉を衛生的に良好に保つため、岡山県の指導の下(2)の取組を継続して行うと共に、以下の取組みを進める。

設 備	区 分	取 組	実施主体
引湯（供給・引込）管等	自主的	引湯管の経年劣化の程度を把握し、劣化が著しいものは更新を検討する。	源泉所有者 設備所有者

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の状況

奥津温泉の利用客数は、年間約 10 万人である。平成 25 年度の「美作国建国 1300 年」事業や、平成 28 年春には「晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーン」等が実施し、奥津温泉を含む鏡野町の PR・プロモーションを行った。日帰り温泉施設の施設改修等により入込客の増減が大きくなっているが、宿泊施設の再オープン等により、H26 年度を境に増加傾向にある。奥津温泉における温泉利用の状況は、以下のとおりである。

① 過去 3 年間の温泉の利用者数

(単位：人)

温泉地	区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
奥津温泉	宿 泊	6,027	8,134	8,574
	日 帰	81,467	93,983	87,072
	合 計	87,494	102,117	95,646

② 直近 1 年間（平成 28 年度）の温泉の利用者数

(単位：人)

温泉地	区分	施設数	総定員	利用者数					
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
奥津温泉	宿泊	7	200	708	895	589	650	1,275	
	日帰	2	—	6,469	8,376	5,288	6,353	9,112	
	合計	9	200	7,177	9,271	5,877	7,003	10,387	
		9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
		630	752	1,104	529	491	332	619	8,574
		6,313	6,703	11,299	5,888	8,342	6,577	6,352	87,072
		6,943	7,455	12,403	6,417	8,833	6,909	6,917	95,646

(2) 取組の現状

奥津温泉において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

温泉地	取 組	実施主体
-----	-----	------

奥津温泉	奥津温泉・奥津溪清掃活動 温泉地の美化活動として、毎年実施されている地域の清掃活動に参加。	奥津温泉旅館組合 鏡野町観光協会
	道の駅「奥津温泉」青空うまいもん市 （冬季以外の毎月第一日曜日に開催）年9回、奥津温泉を中心とした地元の特産品、工芸品等を試食・直売。季節により体験等のイベントを実施。	道の駅奥津温泉
	奥津温泉ファミリーあまご釣り大会・夏まつり・年越そば除夜の鐘 奥津温泉の中心部で、地元の人と観光客が交流する開催する賑わい創出イベントの実施。	鏡野町観光協会
	花美人の里「花里の日」「風呂の日」 奥津温泉の日帰り温泉施設で、毎月第4日曜日には花風呂などが楽しめる「花里の日」、毎月26日にお得な料金で温泉が楽しめるふろの日を開催。	奥津温泉 花美人の里
	サイクリングによるまちおこしイベント 「ファンライド鏡野」や「岡山 鏡野 SEA TO SUMMIT」の開催を始め、県推奨のサイクリングコースの設置やオリジナルコースを設定する。	鏡野町 鏡野町商工会 岡山県
	かがみの里山健康プランの実施 奥津温泉や名勝奥津溪を案内人付きで歩く現地集合現地解散の限定プランを企画・造成。郷土料理作りや野菜の収穫体験等も実施。温泉地内の旅館等において自転車の貸し出しを実施。旅館でレンタサイクルを組み込んだ宿泊プランを開発。	かがみのツーリズム研究会
	外国人観光客向け体験型商品の開発 奥津温泉を始めとした鏡野町の周辺施設と連携した外国人向けの体験型商品を企画・造成し、インバウンド向けのパンフレット等による。	かがみのツーリズム研究会
	アートイベントの実施 奥津温泉を始めとした鏡野町や岡山県北の作家等と連携したアートイベントを実施し、風情溢れる奥津温泉の魅力向上を図る。	ヲクツポイント

(3) 今後の取組方策

奥津温泉において、さらに温泉の公共的利用の増進を図るため、温泉地の魅力のひとつでもある豊富な自然環境、歴史、文化等の維持・保全に努めながら、滞在型の健康保養地としての温泉地を目指すため、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

展開にあたっては、「鏡野町第2次総合計画（平成28年度策定）」、「かがみの創生総合戦略

(平成 27 年度策定)」との関連性に留意し、また、行政や鏡野町観光協会等関係団体とも連携しながら、各取り組みを実施していくものとする。

温泉地	取 組	実施主体
奥津温泉	健康セラピープログラムの開発 ウォーキング、登山、サイクリング、地元食材の里山料理等を商品化し、健康に繋がる滞在型の着地型旅行商品を企画・造成する。	かがみのツーリズム研究会
	プチ湯治プランの開発 長期滞在プラン、温泉利用講座、プログラム提供湯治的滞在（連泊）を基本に、滞在者の幅広いニーズに対応できるよう体験メニューのプログラム化を行う。	かがみのツーリズム研究会
	外国人観光客への対応強化 案内・接客における外国語対応の充実、外国人の食文化・食習慣への対応等、増加傾向にある外国人旅行者の宿泊受入れ対策を充実させていく。	鏡野町観光協会 かがみのツーリズム研究会
	温泉地内の景観整備 奥津温泉は、湯原・奥津県立自然公園内にあり、名勝奥津溪と共に恵まれた自然環境を活かした温泉地づくりを進める。	鏡野町観光協会

8. 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の状況

奥津温泉における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施 設
奥津温泉	公有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（県道 75 号線、町道） ・遊歩道（歌の小径） ・奥津運動公園 ・交通（福祉バス）
	公有施設 （指定管理）	<ul style="list-style-type: none"> ・日帰り温泉施設（2 施設）
	私有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館・民宿（8 施設） ・日帰り温泉施設（2 施設） ・介護施設（1 施設） ・共同浴場（2 施設）

(2) 取組の現状

奥津温泉において、高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
奥津温泉	公有施設	道路	安全対策として歩道部分のカラー舗装	鏡野町
		建築物	障がい者や高齢者・乳幼児等を持つ家族等の利便性を考慮したバリアフリー化を実施 【日帰り温泉・介護施設】 ・身障者向けトイレ完備 ・車いす使用者受け入れ及び車いす貸出	鏡野町
		交通	福祉バス（運賃無料のシャトルバス）の運行	鏡野町
	私有施設	建築物	○高齢者 【旅館】 ・食事提供時にテーブル・椅子等の選択可能 ・部屋割は1階を優先 ・浴場に手すり設置 ○障がい者 【旅館】 ・館内用車いすの配置 ・スタッフによる移動の際の介助 ・トイレを洋式便座に変更 ・簡易ベッドを準備 【介護施設】 ・バリアフリー化 ・車いす使用可能 ○外国人観光客 【旅館】 ・Wi-Fi 設備設置	施設所有者

(3) 今後の取組方策

奥津温泉において、さらに高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりを推進するため、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え以下の取組を進める。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
奥津温泉	公有施設	道路	ユニバーサルデザインの考え	鏡野町

		建築物	方のもと整備していく。	
私有施設		建築物	○障がい者 【旅館】 ・多目的トイレの設置 ・手すりなどの補助器具設置 ・段差を減らす ○外国人観光客 【旅館】 ・食事のお品書きの英語表記 ・自社HPを外国人対応にリニューアル ・スタッフの語学力のアップ	施設所有者

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

奥津温泉は、岡山県北部、鳥取県境に接する中国山地の1000m級の山々を望む、標高400m前後の場所に位置し、1級河川である吉井川の源流奥津川の傍にある。河川からのレベルに旅館等の建物が多く、台風や集中豪雨により度々温泉設備が水に浸かり、一部河川の氾濫も発生している。

(2) 計画及び措置の現状

奥津温泉において、現在、災害防止に関し策定している鏡野町地域防災計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

温泉地	計画又は措置	計画又は措置の概要
奥津温泉	岡山県水防計画	水防法並びに岡山県水防計画に基づき策定。水防業務の調整・円滑な実施のため必要な事項を規定。
	鏡野町地域防災計画	災害対策基本法に基づき鏡野町が策定。区域ごとに警戒体制等に関する事項を規定。鏡野町土砂災害ハザードマップに基づき、避難先へ避難する。
	原子力災害に備えた鏡野町広域避難計画	鏡野町地域防災計画（原子力災害対策編）に基づき策定。国指針と岡山県広域避難計画との整合を図り、広域避難体制を整備。
	告知端末	鏡野町内の各戸及び各事業所等に設置。
	自主防災	温泉地内の各施設で避難訓練を実施。

(3) 今後の取組方策

災害発生時には、奥津温泉では観光客が多数存在するという地域である。このため迅速な情報収集と行動がより一層不可欠であり、各種計画に新たな項目を設けるよう働きかけていく。

また、奥津温泉において、災害の防止を図るため、(2)の計画及び措置に基づく取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

源泉	取組	実施主体
奥津温泉	各施設で鏡野町土砂災害ハザードマップや避難場所、災害情報を館内に掲示するなど、防災情報を提供する。	各施設所有者
	各施設での防災訓練のほか、地域の防災訓練との同時実施や、各施設の合同避難訓練を実施する。	奥津温泉旅館組合 鏡野町観光協会

1. 国民保養温泉地位置図



国民保養温泉地施設配置図

